

血圧とスクリーニングによって検出された心房細動との関係性

妹尾 恵太郎

京都府立医科大学不整脈先進医療学講座

【目的】 高血圧は心房細動（AF）と脳卒中の危険因子であることはよく知られているが、高血圧集団におけるスクリーニングで検出されたAFと血圧レベルとの関係性を評価した研究はない。

【方法】 日本全国から高血圧患者（60歳以上）を前向きに集め、分散型臨床試験を行った。参加者には3ヵ月間自宅で心電図と血圧を測定してもらった。血圧と心電図の同時記録には、心電図機能を備えた血圧計（Complete：オムロンヘルスケア、京都市）を使用した。心電図波形を医師が目視で確認し、医師がAFと診断した症例をAF群と定義した。

【結果】 2022年4月から2023年7月の間に、全国から4,078人の高血圧患者が本研究に参加した。測定データのない人（n=258）を除くと、心房細動の検出率は5.8%（n=220/3,820）であった。心房細動検出率はベースライン血圧カテゴリー間で有意差はなく（log rank、p=0.54）、SBP135～144および/またはDBP85～89、SBP145～159および/またはDBP90～99、SBP \geq 160および/またはDBP \geq 100のハザード比（95%信頼区間）はそれぞれ0.83（0.57～1.19）、0.79（0.55～1.14）、0.99（0.59～1.68）であった（SBP \leq 134、DBP \leq 84を基準）。観察期間中の心房細動検出に対する測定率や降圧薬の影響を考慮しても、結果は変わらなかった。

【結論】 高齢高血圧者における未診断心房細動の検出率は5.8%であり、ベースライン血圧カテゴリー間で有意差はなく、測定率や降圧薬の影響もなかった。